

【用語】要害山改村―関所を囲む山々を警備する村 向後―こののち、今後 先規―以前からの掟、前例 不分明―はつきり区別がつかない 通路―行き来すること 評儀―評議、種々の意見を交換して相談すること 御上―主君、領主 厄介―手数や迷惑をかけること 土塩村―碓氷郡松井田町

【解説】江戸時代の関所は、単に関所番がいて建物・武器などがあれば取締りができたわけではない。その不備を補うため見張り番所を設置して関所破りの監視などを行っていた。さらに関所を囲む周辺の山河を特別警備区域に指定して人々の出入りを禁止したり、周辺の村々を関所付き村とすることで、地元村民に警備機能の一端を課していた。

この特別警備区域を要害とか要害山（お囲い山）といい、関所構内と同様に重要な場所として認識されていた。碓氷関所の場合、碓氷峠下の堂峯見張り番所から関所方面一帯が要害区域であり、要害内は他所の者の自由な往来が禁止されていた。しかも、その要害内に位置した九カ村は碓氷関所付き村に指定され、他所の者が潜入するのを取り締まる役割を担っていた。この文書は関所付き九カ村のなかの土塩村役人が碓氷関所へ提出した要害内の取締り請書である。とくに五料・土塩・上増田の三カ村は要害改め村と言われたが、これは要害内の入之湯（現在の霧積温泉）への入湯者の通行改めという役割を担う村であったことによると思われる。